

～世界中の"好き"を加速する～

アジャイルメディア・ネットワーク株式会社

証券コード：6573



Agile Media  
Network

# 第16期 定時株主総会 招集ご通知

## 開催日時

2023年3月30日（木）午前10時  
（受付開始：午前9時30分）

## 開催場所

東京都千代田区内幸町1-3-1 幸ビルディング  
TKP新橋カンファレンスセンター ホール14A  
（裏表紙のご案内図をご参照ください）

## 目次

第16期定時株主総会招集ご通知	1
事業報告	5
連結計算書類	25
計算書類	39
監査報告書	49
株主総会参考書類	
第1号議案 定款一部変更の件	55
第2号議案 取締役（監査等委員である 取締役を除く。）4名選任の件	56

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、当日のご来場は極力お控えいただき、書面（郵送）またはインターネットにより事前に議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

証券コード 6573  
2023年3月9日  
(電子提供措置の開始日 2023年3月8日)

株 主 各 位

東京都港区虎ノ門四丁目1番40号  
アジャイルメディア・ネットワーク株式会社  
代表取締役社長 宮 地 広 志

## 第16期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社第16期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイト「第16期定時株主総会招集ご通知」として電子提供措置事項を掲載しております。

・当社ウェブサイト <https://agilemedia.jp/ir/news>

また、上記のほか、インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。

・東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

上記ウェブサイトにアクセスして、当社名又は証券コードを入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択のうえ、ご覧ください。

株主の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、株主総会会場へのご来場は極力お控えいただき、書面（郵送）またはインターネットによる事前の議決権行使にご協力ください。

書面（郵送）またはインターネットでの議決権行使の場合、P3「議決権行使についてのご案内」をご確認のうえ、2023年3月29日（水曜日）午後7時まで議決権を行使くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

### 記

1. 日 時 2023年3月30日（木曜日） 午前10時（受付開始 午前9時30分）
2. 場 所 東京都千代田区内幸町1丁目3-1 幸ビルディング  
TKP新橋カンファレンスセンター ホール14A  
(末尾の会場ご案内図をご参照ください。)
3. 目的事項  
報告事項
  1. 第16期（2022年1月1日から2022年12月31日まで）事業報告及び連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
  2. 第16期（2022年1月1日から2022年12月31日まで）計算書類の内容報告の件

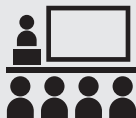
**決議事項** 第1号議案 定款の一部変更の件  
第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）4名選任の件

以 上

- 
- ◎当日ご出席の際には、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
  - ◎書面交付請求された株主様へご送付している書面には、法令及び当社定款第18条の規定に基づき「連結株主資本等変動計算書、株主資本等変動計算書、連結計算書類の連結注記表及び計算書類の個別注記表」を記載しておりません。したがって、当該書面は、監査報告を作成するに際し、監査等委員会及び会計監査人が監査をした書類の一部であります。
  - ◎電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトに掲載させていただきます。

# 議決権行使についてのご案内

## ■ 株主総会にご出席いただける場合



当日ご出席の際は、お手数ながら本招集ご通知をご持参いただくとともに同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

**開催日時** 2023年3月30日（木曜日）午前10時

## ■ 株主総会にご出席いただけない場合



### 書面による議決権行使

同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご記入いただきご送付ください。議決権行使書面において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。

**行使期限** 2023年3月29日（水曜日）午後7時必着



### インターネットによる議決権行使

次頁のインターネットによる議決権行使のご案内をご高覧の上、画面の案内に従って、賛否を入力してください。

**行使期限** 2023年3月29日（水曜日）午後7時まで

スマートフォンでの議決権行使は、「スマート行使」をご利用ください。

# インターネットによる 議決権行使のご案内

インターネットによる議決権行使は、当社の指定する以下の議決権行使ウェブサイトをご利用いただくことによつてのみ可能です。

議決権  
行使期限

2023年3月29日（水曜日）  
午後7時まで

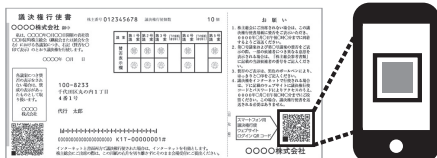
議決権行使  
ウェブサイト

<https://www.web54.net>



## 「スマート行使」について

同封の議決権行使書用紙に記載された「スマートフォン用議決権行使ウェブサイトログインQRコード」を読み取りいただくことにより、「議決権行使コード」および「パスワード」が入力不要でアクセスできます。  
※上記方法での議決権行使は1回に限ります。



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

## ❗ ご注意事項

- ① 書面とインターネット（「スマート行使」を含む。）により二重に議決権を行使された場合は、インターネット（「スマート行使」を含む。）によるものを有効な議決権行使として取り扱わせていただきます。
- ② インターネット（「スマート行使」を含む。）により議決権を複数回行使された場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使として取り扱わせていただきます。
- ③ 議決権行使ウェブサイトをご利用いただく際の接続料金及び通信料金等は株主様のご負担となります。
- ④ インターネットのご利用環境、ご加入サービスやご使用の機種によっては、議決権行使ウェブサイトをご利用いただけない場合があります。

インターネットによる議決権行使に関するお問い合わせ

三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル

0120-652-031 9:00~21:00

## アクセス手順について

### 1. 議決権行使ウェブサイトへアクセスする

\*\*\* ようこそ、議決権行使ウェブサイトへ! \*\*\*

- 本サイトのご利用にあたっては、「インターネットによる議決権行使について」の記載内容をよくお読みいただき、ご了承いただく方は「次へ進む」ボタンをクリックしてください。
- 画面を閉じる場合は、Webブラウザを終了してください。

次へ進む

クリック

- <その他ご案内>
- 届出ご通知書の電子配信ご利用のお客様の種別をスマートフォンからご確認ください。
  - 届出ご通知書の電子配信を行っている銘柄をご所有の方で、すでに登録いただいたメールアドレスなどの変更・電子配信の中止を希望される方は、ご登録をキャンセルしてください。
  - 住所変更や発行株数等の異動発生などの用途別のご依頼はご登録をキャンセルしてください。

「次へ進む」をクリック

### 2. ログインする

\*\*\* ログイン \*\*\*

- 議決権行使コードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。
- 議決権行使コードは「届出ご通知書」に記載されています。  
（電子メールによる届出ご通知書の場合は、届出ご通知電子メールを確認してください。）

入力

議決権行使コード:

クリック

ログイン

閉じる

お手元の議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」を入力し、「ログイン」をクリック

### 3. パスワードの入力

\*\*\* パスワード認証 \*\*\*

- パスワードを入力し、「次へ進む」ボタンをクリックしてください。
- ソフトウェアキーボードを使用してください。
- パスワードをお忘れの場合は、パスワードをリセットしてください。

入力

パスワード:  ソフトウェアキーボード

クリック

次へ

お手元の議決権行使書用紙に記載された「パスワード」を入力し、「次へ」をクリック

以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

# 事業報告

(2022年1月1日から  
2022年12月31日まで)

## 1. 企業集団の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及び成果

当連結会計年度（2022年1月1日から2022年12月31日まで）におけるわが国の経済は、円安と資源高による物価上昇、新型コロナウイルス感染拡大が継続していることやロシア・ウクライナ情勢による世界的な政治的・経済的な不安定により、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当連結会計年度においては、自社セミナーの開催やSEOなどのマーケティング施策によりアンバサダープログラム導入数の増加に努めたものの、新型コロナウイルス第7波での感染拡大によってクライアント企業におけるファン交流のイベントが引き続き自粛になったことや、債務超過状態の継続などに起因する当社財政状態への懸念により、一部の顧客との契約解除が発生したこと、さらには新規顧客獲得への困難が継続したことから売上高は低調に推移いたしました。

利益については、前年からコスト削減に取り組んでおり売上原価や販売費及び一般管理費は前年同期比と比べて削減は進んでいるものの、上記を要因とした売上高の減少を補いきれていない状況です。

以上の結果、当連結会計年度の経営成績は、売上高は447,185千円（前年比29.3%減）となりました。営業損失は223,035千円（前期は営業損失106,168千円）、経常損失は224,637千円（前期は経常損失96,618千円）、親会社株主に帰属する当期純損失は231,801千円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失740,769千円）となりました。

### (2) 設備投資の状況

当連結会計年度において実施致しました設備投資等の総額は17,136千円であり、その主な内容は、本社オフィス移転に伴う建物附属設備への投資や、自社開発ソフトであるアンバサダープラットフォームの機能追加などへの投資による支出であります。

### (3) 資金調達の状況

当連結会計年度において、今後の当社の成長に寄与する資本業務提携への出資金やM&A資金、システム開発費用等に充当するための資金として674,748千円を第三者割当増資の方法により調達を行いました。

## (4) 対処すべき課題

### ① 不適切な資金流用及び会計処理への再発防止策の徹底

当社は、2021年6月16日付「2021年12月期第1四半期報告書の提出期限の延長（再延長）に係る承認申請書提出のお知らせ」及び同年6月21日付「第三者委員会の最終調査報告書公表及び役員報酬の減額に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、第三者委員会による調査の結果、元役員による不適切な資金流用が行われていたこと、及びその後の社内調査により、ソフトウェア資産において不適切な会計処理が行われていたことが判明いたしました。

当社は、本事案を受け、第三者委員会の最終調査報告書による原因分析及び提言を真摯に受け止め、再発防止策を策定し、継続して運用をおこなっております。しかしながら、2022年2月1日付「第三者委員会の設置及び2021年12月期決算発表の延期に関するお知らせ」にて開示のとおり、当社台湾子会社ならびに当社の過去の取引において、前回調査で発覚しなかった疑義について、再度、第三者委員会を設置し調査を実施いたしました。調査結果については、2022年4月11日付「第三者委員会の調査報告書の公表について」にて開示しております。

当社は、これらの2度にわたる第三者委員会の調査報告の結果を踏まえて、2022年9月30日付「『改善計画・状況報告書』の公表について」にてお知らせのとおり、以下の再発防止策を策定し、コーポレートガバナンスの強化、内部管理体制の整備等、再発防止策の実施に真摯に取り組んでおります。

### (1) コーポレートガバナンス体制の強化

#### ① 監査等委員会設置会社への移行

取締役会の中に社外役員を中心とした監査等委員会を設置することで、監査等委員である取締役も取締役会の決議に参加することとなり、取締役の議案に対する関心を高め、強い監督・牽制機能を発揮できる体制を構築する。

#### ② ガバナンス強化委員会の設置

取締役会における重要な意思決定事項やプロセスが適切であるかを確認し、取締役会の諮問機関として客観的かつ合理的な助言を行うことを目的とする。

#### ③ 役員選任基準や適合状況の検討フローの見直し

役員選任のガイドラインを策定するとともに、任意の指名委員会を設置し、役員の選解任プロセスの透明性を担保し、当社の適切な経営体制の構築を図る。社外役員の選定基準を策定ならびに策定後の継続的な見直しにより、十分な独立性と監督機能を有する社外役員を確保する。

#### ④ 取締役会による監督機能強化

取締役会における決算報告の拡充及び報告基準の引き下げ等の報告内容の充実、取締役会議事録の内容充実・作成方法の改善を通じ、取締役会での議論を充実させ監督機能を強化する。

## (2) コンプライアンス意識の徹底

### ① コンプライアンスを最優先した経営の実現

経営トップ自ら、コンプライアンス遵守が経営の最重要課題であることを再度明確にし、役職員に対して、継続してメッセージを発信する。

### ② 役職員に対するコンプライアンスの意識改革

コンプライアンス専任部署を設置し、コンプライアンス遵守状況に関するアンケートの実施、コンプライアンス研修やリスク管理研修を定期的実施することにより、役職員のコンプライアンス意識の維持向上を図る。

### ③ 職業倫理の確立

職業倫理を考慮した人事評価を行うことでコンプライアンス意識の向上を図る。

## (3) 組織体制の再構築

### ① リスク管理体制の強化

コンプライアンスに関する企業文化改革及び全社横断的な内部統制システムの強化を目的として、経営トップ及び各部門長等から構成されるリスク管理委員会を設置する。

### ② 適切な権限配分の実現と権限集中の解消

管理体制を強化することにより、適切な権限配分を実現する。

### ③ 危機管理体制の強化

コンプライアンス違反等の不祥事が発生した際に、速やかに改善策を提示するための体制や規程、マニュアル等を整備する。

## (4) 監査体制の強化

### ① 監査等委員との連携強化

三様監査として、会計監査人と監査等委員会、内部監査室の会合を行い情報交換を密にする他、内部監査室から監査等委員会へ内部監査業務の内容を報告させる体制を整備し、必要に応じて監査等委員会の指示に従い内部監査室が内部監査を実施するなど、内部監査室と監査等委員との連携の強化を図る。

### ② 内部監査体制の見直し

内部監査の体制強化のため、内部監査室の専任担当者を確保し、また、内部監査室員への定期的な教育や外部の専門家のサポート体制を構築し、内部監査体制の強化を図る。

### ③ 社内情報へのアクセス権限の見直し

監査等委員及び内部監査室が内部監査を遂行する上で必要な社内情報へのアクセス権限を見直し、内部



監査をより機動的に遂行できる体制を整備する。

(5) 社内規程の整備・改訂及び業務フローの見直し

① 社内規程の包括的な見直しと社内周知の徹底

社内規程や業務フローなどに不備・不足があったために、資金流用などの意図的な不正が引き起こされたことを受け、職務権限規程、業務分掌規程、経理規程及びコンプライアンス規程等、不備、不足のあった規程の見直しを行うとともに、それら以外の規程についても一斉点検を実施し、必要な改定を行い速やかに社内に周知する。

② 社内改善分科会の立ち上げ

二度にわたる不祥事の要因の一つとして、社内規程や業務フローなどの不備・不足、それらの周知不足が考えられるため、社内規程や業務フローの内容を改善し、社員への周知の徹底を図る社内改善分科会を立ち上げる。

③ 経理部門の専門知識の向上

経理部門において当社に必要な会計専門知識を習得し、個別の会計処理の適否を検討できるよう、外部の会計専門家から研修を受けることのできる体制を整備する。

(6) 情報収集体制の強化

① 外部機関への内部通報窓口の設置

完全に中立な立場にある外部の内部通報窓口を設置することにより、内部通報をより適切に対処する体制を整備する。

② 内部通報制度の周知徹底

内部通報制度について定期的な社内研修を行い、また全社員集会などの会などの場での周知回数を増やす等により、役職員への周知を徹底する。

③ 内部通報に関する信頼の醸成

情報提供者の秘匿及び不利益な扱いの禁止について、規程へ明記し周知徹底することで、内部通報に関する信頼感を醸成する。

④ 役職員への定期的なアンケート調査

当社役職員へコンプライアンス違反についての定期的なアンケートを実施し、情報収集に努める。

(7) モニタリングの継続

上記具体策を実行するに当たり、監査等委員会を中心として定期進捗モニタリングにより、適時状況を把握し、改善に努める。

## ② アンバサダー事業の収益拡大

### イ. 顧客基盤とサービス提供範囲の拡大について

当社グループの主力事業であるアンバサダー事業は、これまで大手企業を中心でありましたが、2020年より提供サービスのラインナップを増やすことで、より良い製品・サービスを展開している中小規模の企業支援が可能になり、顧客基盤が拡大中となっております。また、これまでは当社の基幹システム「アンバサダープラットフォーム」を軸としたファンコミュニティの提案が中心となっておりますが、今後はマーケティング戦略上連携が求められやすいSNSアカウント運用やインフルエンサー活用などを組み合わせた提案活動を強化していくことで、サービス提供範囲を拡大してまいります。

SNSアカウント運用やインフルエンサー市場も、ある程度成熟してきていることから、「次の一手」として候補にあがるアンバサダーマーケティングの拡大余地は大きいと考えており積極的な営業活動が必要と考えております。

### ロ. アンバサダー活動のモデル化及びそのノウハウについて

当社グループが支援する企業におけるアンバサダーとの活動は、直接会って交流するリアルイベントから、インターネットを通じて参加できる企画、商品開発、販促物制作など様々です。

今後は業種・業態に合わせた活性化プログラムの開発を推進し、交流する際のノウハウを提供することで導入の障壁を下げる必要があると考えております。

### ハ. アンバサダープラットフォームの機能充実について

当社グループの基幹システムであるアンバサダープラットフォームはアンバサダーの組織化、影響力/発言分析、連絡をワンストップで提供しており、この機能開発への投資を継続的に行っております。

現在は導入企業の顧客データとの関係や、企業担当者による運営負荷を軽減するオペレーションの自動化機能などの開発を進めており、アンバサダープログラムのさらなる価値向上に努めております。また、企業や外部機関が保有する様々な「外部データ」と、アンバサダーの「クチコミデータ」を連携することで更なる価値証明が可能となるため、データ連携、機能開発への投資が必要と考えております。

## ③ アンバサダープログラムのサービス拡充と高付加価値化

当社グループが行う事業報告セグメントは企業向けサービス提供を前提とした「アンバサダー事業」のみとなっており、ひとつの事業モデルに依存している状況にあるため、複数のビジネスモデルを持ち、より頑強な組織へと成長していくことが今後の発展において重要であると考えております。

今後は、サービスの提供先を企業だけでなく一般の消費者・地方自治体等にも広げ「アンバサダー」のさらなる可能性を見出すとともに、当社のテクノロジーと企画・運営ノウハウを活用した販促・購買支援、市場調査、商品開発など新たな収益性を見込めるサービス展開を進めてまいります。

#### ④ 効果検証活動

当社グループではアンバサダーによる貢献効果をデジタル、リアルの両面で検証しております。今までの効果検証により、アンバサダープログラムの導入によって、アンバサダーの発言活性化効果や、周囲の友人や知人にオススメする貢献が確認されております。

※[AMN調査リリース] SNSのクチコミが 生活者の購入・来店に与える影響を調査 (2022年9月26日)

<https://agilemedia.jp/pr/release220926.html>

今後もアンバサダープログラムを通じたアンバサダーによる貢献効果の検証活動が重要と考えており、来店・誘導貢献、購買貢献など多面的に貢献を明らかにするべく一層の検証活動を強化してまいります。

#### ⑤ 当社グループ及びサービスブランドの知名度向上について

当社グループは、インターネットの普及や「アンバサダー」の重要性の高まりと共に、新聞・テレビ・雑誌等各種マスメディアで紹介される機会が増加したことから、徐々に知名度が向上しつつあると認識しております。しかしながら、更なる事業拡大及び他のSNSマーケティング施策との差別化を図るにあたり、当社グループのブランドを確立し、より一層知名度を向上させていくことが重要です。今後も、費用対効果に注意を払いながらプロモーション活動を強化してまいります。

### (5) 財産及び損益の状況の推移

区 分	2019年度 第13期	2020年度 第14期	2021年度 第15期	2022年度 (当連結会計年度) 第16期
売 上 高	834,339 千円	641,724 千円	632,900 千円	447,185 千円
経 常 損 失 (△)	△80,897 千円	△185,827 千円	△96,618 千円	△224,637 千円
親会社株主に帰属する 当期純損失 (△)	△374,257 千円	△345,405 千円	△740,769 千円	△231,801 千円
1株当たり当期純損失 (△)	△180.33 円	△151.50 円	△297.74 円	△77.00 円
総 資 産	409,161 千円	668,269 千円	444,670 千円	437,045 千円
純 資 産	209,258 千円	168,525 千円	△368,559 千円	73,037 千円

(注) 1. 売上高には、税込処理を採用している一部の子会社を除き消費税等は含まれておりません。

2. 第13期および第14期の状況につきましては、2022年5月11日に公表した訂正有価証券報告書の内容を反映しておりません。

## (6) 重要な親会社及び子会社の状況

### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

### ② 重要な子会社の状況

名称	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)
(連結子会社) 株式会社popTEAM	1,000千円	アンバサダー事業	100.0
(連結子会社) 愛加樂股份有限公司	500千台湾ドル	アンバサダー事業	100.0

## (7) 主要な事業内容 (2022年12月31日現在)

当社は「世界中の“好き”を加速する」をビジョンに掲げ、クライアント企業の商品や製品・サービスのファンを対象にクチコミ（利用体験の発信・購入の推奨）の活性化や購買の促進を支援する様々なサービスを提供しております。

インターネット、スマートフォンの普及により人々の生活や企業の活動は大きく変化し、製品やサービスが高機能化・成熟化する中で、今までの企業の宣伝活動の中心であったテレビCMや新聞・雑誌広告だけでは、自社の製品やサービスの価値を十分に伝えることが困難な状況となり、今後も情報が溢れ益々多様化が加速すると考えられます。

一方、インターネットの普及以前から製品やサービスの評判を伝える“クチコミ”は存在し、友人や知人から伝えられる体験、商品に関する満足や推奨は購買選択に影響を与える重要な情報でした。

個人がSNSを通じて“クチコミ”する機会が増加しており、成熟した市場におけるプロモーションや商品/サービス開発には影響力のある“クチコミ”が不可欠であり、その存在は益々重要になると考えております。

当社はこうした変化を捉え、好きな企業、製品やサービスについて“自発的にクチコミ/推奨するファン”を「アンバサダー」と定義し、アンバサダーの情報発信力、運営ノウハウを活用し、分析テクノロジー、プロモーション、販売促進活動から商品開発を支援する「アンバサダー事業」を展開しております。

企業の取り組みや製品/サービスの価値を正しく伝えることが難しい時代において、「アンバサダー」を通じて周囲の友人に魅力が伝わる仕組みを提供することで、クライアント企業へ有益な情報を提供しマーケティング活動の推進に貢献することを目指しております。

## (8) 主要な営業所及び子会社（2022年12月31日現在）

### ① 当社

名 称	所 在 地
本 社	東京都港区

### ② 子会社

名 称	所 在 地
株 式 会 社 popteam	東京都港区

## (9) 従業員の状況（2022年12月31日現在）

### ① 企業集団の使用人の状況 49名（前期比11名減）

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。  
2. 当社グループは「アンバサダー事業」を主要な事業としており、他事業セグメントの重要性が乏しいためセグメント別の記載を省略しております。

### ② 当社の従業員の状況

従業員数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
49名	3名減	36歳	4.5年

- (注) 従業員数は就業人員であります。

## (10) 主要な借入先及び借入額（2022年12月31日現在）

借入先	借入額（千円）
株式会社三井住友銀行	130,632
株式会社商工組合中央金庫	72,600

## 2. 会社の株式に関する事項（2022年12月31日現在）

(1) 発行可能株式総数 11,940,720株

(2) 発行済株式の総数 5,429,440株

(3) 株主数 1,875名

### (4) 大株主

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
麻布台1号有限責任事業組合	1,888,890 株	34.8 %
株式会社鈴木商店	835,800	15.4
アルファソリッド株式会社	370,370	6.8
株式会社古知	185,000	3.4
DXエンゲージメントパートナーズ合同会社	145,300	2.7
上田 怜史	139,500	2.6
徳力 基彦	115,200	2.1
プラスワンホールディングス株式会社	77,800	1.4
株式会社マイナビ	66,000	1.2
國本 明伸	63,000	1.2

(注) 当社は、2023年1月20日付で麻布台1号有限責任事業組合から、当社が保有していた当社株式1,888,890株を虎ノ門パートナーズ株式会社、神谷町パートナーズ株式会社、深山信次、株式会社イボルブ、加來武宜、株式会社corporate investment及び宮地広志に譲渡した旨の通知を受領しております。

### (5) その他株式に関する重要な事項

2022年12月27日開催の臨時株主総会において、麻布台1号有限責任事業組合及びアルファソリッド株式会社を割当先とする第三者割当による新株式の発行、並びに麻布台1号有限責任事業組合、アルファソリッド株式会社及び株式会社古知を割当先とする第三者割当による新株予約権の発行を決議し、株式会社古知が当該新株予約権の一部を行使したことにより、発行済株式の総数が2,444,260株増加しております。

### 3. 会社の新株予約権等に関する事項（2022年12月31日現在）

#### 当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況

	第8回新株予約権
発行日	2018年6月15日
新株予約権の発行価額	無償
新株予約権の行使期間	2020年6月16日～2028年6月15日
役員の保有状況	9個
うち取締役（監査等委員及び社外取締役を除く）	9個（1名）
うち社外取締役（監査等委員を除く）	－個（－名）
うち取締役（監査等委員）	－個（－名）
新株予約権の目的となる株式数の種類及び数	普通株式 2,700株
新株予約権の行使時に払い込みをなすべき金額	新株予約権1個当たり 980,400円 (1株当たり 3,268円)

(注) 1. 2017年10月16日開催の取締役会議により、2017年12月5日付で普通株式1株につき20株の株式分割が行われております。また、2018年8月10日開催の取締役会議により、2018年9月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割が行われております。上表の「新株予約権の目的となる株式数の種類及び数」及び「新株予約権の行使時に払い込みをなすべき金額」は、調整後の内容となっております。

2. 新株予約権の行使の条件は次のとおりであります。

新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時において、当社又は当社子会社の取締役、監査役、従業員その他これに準ずる地位を有していなければならない。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りではない。その他条件は、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結した「新株予約権割当契約」で定めるところによる。

## 4. 会社役員に関する事項

### (1) 取締役の氏名等（2022年12月31日現在）

地 位	氏 名	重要な兼職の状況
代表取締役社長	荒 木 哲 也	－
取 締 役	宮 地 広 志	Orb Partners株式会社 代表取締役社長
取 締 役	川 上 元 樹	川上元樹公認会計士事務所 所長
取 締 役	松 宮 優 紀 子	－
取 締 役 (常勤監査等委員)	野 口 敦 司	－
取 締 役 (監 査 等 委 員)	豊 嶋 秀 直	豊嶋法律事務所 所長
取 締 役 (監 査 等 委 員)	水 野 靖 彦	株式会社プレアス 代表取締役社長 株式会社絵本ナビ 取締役CFO

- (注) 1. 当社は、取締役荒木哲也氏、取締役宮地広志氏、取締役川上元樹氏、取締役松宮優紀子氏、取締役野口敦司氏、取締役豊嶋秀直氏及び取締役水野靖彦氏との間で会社法第430条の2第1項に規定する補償契約を締結しており、同項第1号の費用及び同項第2号の損失を法令の定める範囲内において当社が補償することとしております。ただし、法令違反の行為であることを認識して行った行為に起因して生じた損害は補償されないなど、一定の免責事由があります。
2. 取締役野口敦司氏、取締役豊嶋秀直氏及び取締役水野靖彦氏の3氏は社外取締役であります。
3. 監査の実効性を高めるため、常勤の監査等委員を選定しております。
4. 常勤監査等委員の野口敦司氏は公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
5. 当社は取締役野口敦司氏、取締役豊嶋秀直氏及び取締役水野靖彦氏の3氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
6. 取締役荒木哲也氏は2023年1月31日付で代表取締役及び取締役を辞任しております。

### (2) 当事業年度中に辞任した監査役

氏 名	辞任日	辞任時の地位および重要な兼職の状況
櫻井 英哉	2022年1月31日	当社監査役

### (3) 責任限定契約の内容の概要

当社は、定款において、取締役（業務執行取締役等である者を除く。）の責任限定に関する規定を設けております。当該定款に基づき職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮することを目的として、当社と監査役本庄孝亮氏及び監査役田中純一郎氏とはその在任中、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しておりました。取締役野口敦司氏、取締役豊嶋秀直



氏及び取締役水野靖彦氏とは、現在同契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額としております。

なお、当該責任限定が認められるのは、当該取締役（業務執行取締役等である者を除く。）が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

#### **(4) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要**

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、被保険者が業務遂行に起因して損害賠償請求がなされたことによって被る法律上の損害賠償金及び争訟費用を補填することとしております。

ただし、当該保険契約には、被保険者の違法な私的利益供与、犯罪行為、法令に違反することを認識しながら行った行為に起因して生じた損害は補填されないなど、一定の免責事由があります。当該保険契約の被保険者は当社およびその子会社の取締役（監査等委員である取締役を含む。）であり、全ての被保険者について、その保険料を全額当社が負担しております。

#### **(5) 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等の額**

##### **① 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項**

当社の取締役に対する報酬は、株主総会の決議によって定められた報酬限度額の範囲内で、監査等委員を除く取締役は取締役会の決議で、監査等委員である取締役は監査等委員である取締役の協議で、具体的な金額等を決定しております。

当社の役員報酬は、毎月定額にて支給される基本報酬（固定報酬）としております。現在は、業績連動報酬は設けておりませんが、基本報酬は国内の同業種や同規模の他企業の水準を参考のうえ、当社及び担当部門の業績、従業員の賃金水準などを勘案して毎年定時株主総会後の取締役会において決定しております。経常利益は、企業業績を適切かつ客観的に表す一般的な指標であり、また当社は売上高経常利益率を目標とする指標の1つとしていることから、役員報酬の指標としております。

当事業年度における個々の役員の報酬額については、株主総会で決議された報酬の枠内で2022年3月30日、2022年8月9日及び2022年12月27日の取締役会の決議並びに2022年8月9日の監査等委員である取締役の協議によりそれぞれの能力、貢献度、期待度を勘案して決定いたしているため、その内容は決定方針に沿うものであると判断しております。

また、取締役会は、監査等委員である社外取締役3名が出席して役員報酬の決定基準の遵守状況を適切に監督しており、客観性・透明性は確保しております。

## ② 取締役及び監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

当社の役員の報酬等に関する株主総会の決議は、2017年3月30日開催の定時株主総会において、取締役について年額100,000千円以内（当時の取締役員数は5名）、監査役の報酬限度額は年額15,000千円以内（当時の監査役員数は3名）と決議いただいております。また、2022年8月9日開催の臨時株主総会において、取締役（当時の取締役員数は3名。監査等委員である取締役を除く。）について年額100,000千円以内、監査等委員である取締役（当時の監査等委員である取締役員数は3名）の報酬限度額は年額15,000千円以内と決議いただいております。

## ③ 取締役及び監査役の報酬等の総額

取締役（監査等委員を除く）	6名	30,958千円	（うち社外	1名	1,450千円）
取締役（監査等委員）	3名	5,500千円	（うち社外	3名	5,500千円）
監査役	4名	5,273千円	（うち社外	4名	5,273千円）

## (6) 社外役員に関する事項

### ① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当該他の法人等との関係

取締役吉田茂氏は、株式会社ワイズテーブルコーポレーションの取締役、吉田茂公認会計士事務所の代表及び誠栄監査法人の代表社員でありました。当社は同社、同事務所及び同法人と特別な関係はありません。同氏は2022年8月9日付で当社取締役を退任しております。

取締役豊嶋秀直氏は、豊嶋法律事務所の所長であります。当社は同事務所と特別な関係はありません。

取締役水野靖彦氏は、株式会社プレアスの代表取締役社長、株式会社絵本ナビの取締役CFOであります。当社は両社と特別な関係はありません。

監査役田中純一郎氏は、セブンライツ法律事務所の代表弁護士でありました。当社は同事務所と特別な関係はありません。同氏は2022年8月9日付で当社監査役を退任しております。

② 当事業年度における主な活動状況

(ア) 取締役会、監査役会及び監査等委員会への出席状況

役員氏名	取締役会		監査役会		監査等委員会	
	出席数／開催数	出席率	出席数／開催数	出席率	出席数／開催数	出席率
取締役 吉田 茂	10回／10回	100%	—	—	—	—
監査役 本庄 孝充	10回／10回	100%	12回／12回	100%	—	—
監査役 田中 純一郎	10回／10回	100%	12回／12回	100%	—	—
取締役 (監査等委員) 野口 敦司	11回／11回	100%	—	—	6回／6回	100%
取締役 (監査等委員) 豊嶋 秀直	9回／11回	81%	—	—	6回／6回	100%
取締役 (監査等委員) 水野 靖彦	21回／21回	100%	11回／11回	100%	6回／6回	100%

(注) 上表の各役員に対応する開催数、出席数及び出席率は、当事業年度における各役員在任中のものとなります。

(イ) 取締役会、監査役会及び監査等委員会での発言状況等

取締役吉田茂氏は、当事業年度において、在任中に開催された10回の実務取締役会すべてに出席しました。

監査役本庄孝充氏は、当事業年度において、在任中に開催された10回の実務取締役会及び12回の監査役会すべてに出席しました。

監査役田中純一郎氏は、当事業年度において、在任中に開催された10回の実務取締役会及び12回の監査役会すべてに出席しました。

取締役（監査等委員）野口敦司氏は、当事業年度において、在任中に開催された11回の実務取締役会及び6回の監査等委員会すべてに出席し、公認会計士として、財務及び会計に関する専門的知見により、客観的かつ中立な立場から適宜意見の表明を行っております。

取締役（監査等委員）豊嶋秀直氏は、当事業年度において、在任中に開催された11回の実務取締役会中9回に出席し、また6回の監査等委員会すべてに出席し、弁護士として法務に関する豊富な経験と幅広い見識により、客観的かつ中立な立場から適宜意見の表明を行っております。

取締役（監査等委員）水野靖彦氏は、当事業年度において、在任中に開催された21回の実務取締役会、11回の監査役会及び6回の監査等委員会すべてに出席し、事業会社における長年の管理部門責任者並びに役員としての豊富な経験と幅広い見識により、客観的かつ中立な立場から適宜意見の表明を行っております。

## 5. 会計監査人の状況

### (1) 会計監査人の名称 監査法人アリア

(注) 2022年3月4日付のかなで監査法人の辞任に伴い、同日付で監査法人アリアを一時会計監査人に選任し、2022年3月30日開催の定時株主総会にて会計監査人に選任しております。

### (2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

	報酬等の額
当事業年度に係る会計監査人としての報酬等	20,000千円
当社及び当社子会社が支払うべき金額その他の財産上の利益の合計額	20,000千円

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区別しておらず、実質的にも区分できないため、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計金額を記載しております。

2. 会計監査人の報酬等について監査等委員会が同意した理由は、取締役、社内関係部署及び会計監査人からの資料の入手や報告の聴取を通じて、会計監査人の監査計画の内容、従前の職務遂行状況及び報酬見積もりの算出根拠などを確認し、必要な検証を行い、検討した結果、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

### (3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

### (4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。また、監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任します。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

### (5) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

## 6. 会社の体制及び方針

### (1) 業務の適正を確保するための体制についての決定の概要

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

#### ① 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- 1) 取締役の職務執行を監査する権限を持つ監査等委員会を設置し、取締役の職務執行について厳正な監視を行うことにより、職務の執行が法令及び定款に適合することを確保する。
- 2) 取締役会における重要な意思決定やそのプロセスが適切であるかを確認し、取締役会の諮問機関として客観的かつ合理的な助言を行うことを目的に、ガバナンス強化委員会を設置する。
- 3) 取締役の選解任プロセスの透明性を担保し、当社の適切な経営体制の構築と継続に資することを目的に、任意の指名委員会を設置する。
- 4) コンプライアンス専任部署の設置、コンプライアンス規程を制定し法令、定款の内容と共に全社に周知・徹底することを通じ、当社役職員のコンプライアンス意識の向上を図る。
- 5) コンプライアンス専任部署の主導によりコンプライアンスに関する教育・研修を適宜開催し、コンプライアンス意識の維持・向上を図る。
- 6) 外部の内部通報窓口を設置するとともに、社内の内部通報窓口として業務執行部門から独立した監査等委員会事務局が通報対応を行うことにより通報者に不利益が生じない体制としている。
- 7) 組織全体において、反社会的勢力と一切の関わりを持たず、不当な要求を排除する。また、警察、弁護士等と緊密な連携体制を構築することに努める。
- 8) 「1. 企業集団の現況に関する事項 (4) 対処すべき課題に記載」に記載の通り過去2度に渡る不適切事例を受け、職務権限規程、業務分掌規程、経理規程及びコンプライアンス規程等、必要な規程・管理資料等の各種規定を全面的に見直し、刷新している。また、経営トップ自らコンプライアンス遵守が経営の最重要課題であることを再度明確にし、コンプライアンス教育、継続したメッセージの発信等を行うとともに、コンプライアンス違反事実の把握から改善施策の実行に至る迄の実効性を高めるために、規程等の刷新、組織体制の再構築を行っている。

#### ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- 1) 取締役の職務執行に係る情報については、法令、機密管理規程、文書管理規程等によって保存部署及び保存期限を定め、適切に保存及び管理を行う。
- 2) 取締役及び監査等委員は、これらの情報を、いつでも閲覧できるものとする。
- 3) 取締役会資料作成マニュアルを見直し、各議案や報告事項に必要な資料を特定し、より正確かつ深度ある情報を基に取締役会での意思決定が行える体制を構築し運用する。

③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- 1) リスク管理委員会を設置し全社的なリスクの洗い出し・評価を行い、重大なインシデント等に対する機敏な対応を行うこと、リスク管理規程を制定し全社に周知・徹底すると共に、各部門との情報共有を図ること等を通じ、リスクの早期発見と未然防止に努める。なお、当該規程については、危機発生時に適切かつ迅速に対処できるよう、運用状況を踏まえて適宜見直す。
- 2) 危機発生時には、対策本部等を設置し、社内外への適切な情報伝達を含め、当該危機に対して適切かつ迅速に対処する。

④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- 1) 取締役会規程、業務分掌規程、職務権限規程を定め、取締役の職務及び権限、責任の明確化を図る。
- 2) 取締役会は、法定事項の決議、経営に関する重要事項の決定及び業務執行の監督等を行うものとし、毎月1回定期的に開催するほか、迅速かつ的確な意思決定を確保するため、必要に応じて臨時取締役会を開催する。

⑤ 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

取締役会は、企業統治を一層強化する観点から、実効性のある内部統制システムの構築と会社による全体としての法令・定款遵守の体制の確立に努める。

⑥ 当社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- 1) 子会社の一部の取締役は、当社の取締役が兼務することにより、グループ内での方針・情報の共有化と伝達を効率的に実施する。
- 2) グループ全体のコーポレートガバナンスを実践するために、当社各部門はグループ全体の内部統制システム構築の指導・支援を実施すると共に、適法・適正で効率的な事業運営を管理・監査する。
- 3) 当社内部監査担当者は、当社及び子会社の内部監査を実施し、業務の改善策の指導、実施の支援・助言を行う。

⑦ 監査等委員会がその職務を補助すべき使用人（以下「補助使用人」という）を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、補助使用人の取締役（監査等委員である取締役を除く）からの独立性に関する事項及び監査等委員会の補助使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

- 1) 監査等委員会が補助使用人を置くことを求めた場合、取締役会は監査等委員会と協議のうえこれを任命し、補助業務に当たらせる。
- 2) 補助使用人は、監査等委員会を補助するための業務に関し、取締役及び上長等の指揮・命令は受けないものとし、監査等委員会の指揮・命令にのみ服する。
- 3) 補助使用人の人事異動及び考課、並びに補助使用人に対する懲戒処分については、監査等委員会の同

意を得るものとする。

⑧ 取締役及び使用人並びに子会社の取締役、監査役及び使用人等が当社の監査等委員会に報告するための体制

- 1) 監査等委員会は、重要な意思決定のプロセスや業務執行状況を把握するため、取締役会のほか重要な会議及び希望する任意の会議に出席し、又は取締役及び使用人から業務執行状況の報告を求めることができ、取締役及び使用人は、これに応じて速やかに報告する。
- 2) 取締役及び使用人並びに子会社の取締役、監査役及び使用人等は、法令に違反する事実、会社に著しい損害を与えるおそれのある事実その他会社に重大な影響を及ぼす恐れのある事実を発見した場合には、速やかに当社の監査等委員会に報告する。
- 3) 取締役及び使用人並びに子会社の取締役、監査役及び使用人等が、内部監査の実施状況、内部通報制度による通報状況及びそれらの内容を監査等委員会に報告する体制を整備するものとする。
- 4) 内部監査室から監査等委員会に対して、内部監査報告書を提出し内部監査の計画・手続・結果等の報告を行う。必要に応じて監査等委員会は、内部監査室に指示を行い内部監査の実効性を確保する。また、定期的に監査等委員会、内部監査室、会計監査人の三者でコミュニケーションを行い連携をはかる。

⑨ 監査等委員会に報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを受けないことを確保するための体制

当社及び子会社では、監査等委員会への報告を行ったことを理由として、当該報告をした者に対し、解雇を含む懲戒処分その他の不利な取り扱いを行わないよう周知・徹底する。

⑩ 監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査等委員が、その職務の執行について生ずる費用の前払又は償還等の請求をしたときは、当該監査等委員の職務の執行に必要なと合理的に認められる場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理する。

⑪ その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- 1) 監査等委員会は、法令に従い、社外監査等委員を含めるものとし、公正かつ透明性を確保する。
- 2) 監査等委員会は、代表取締役と定期的に会合を持ち、相互の意思疎通を図る。
- 3) 監査等委員会は、取締役等及び使用人の職務執行に係る情報を必要に応じて閲覧することができ、内容説明を求めることができる。
- 4) 監査等委員会は、会計監査人及び内部監査室と定期的に情報交換を行い、相互の連携を図る。



- 5) 監査等委員会は、監査業務に必要と判断した場合には、弁護士、公認会計士、その他専門家の意見を聴取することができる。
- 6) 当期より監査等委員会設置会社に移行し、議決権の行使等を通じた取締役会の監督機能の強化、監査等委員会の過半数を社外委員とすることによる独立性の強化等を行っている。

## (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

業務の適正を確保するための体制の運用状況（2022年）は以下のとおりであります。

### ① 内部統制システム全般

過去2回の不適切事例を受け、2022年8月9日に不祥事発生当時の役員の退任及び、監査等委員を含む新たな取締役5名の選任を行うことで役員体制の刷新を図った。また、同日付で監査等委員会設置会社に移行し、議決権行使等を通じた取締役会の監督強化、過半数を社外取締役とすることによる独立性の強化を図った。さらに、2022年12月27日にコーポレートガバナンス体制の強化と当社事業の更なる推進を目的に、宮地広志取締役（現社長）と川上元樹取締役CFOを追加で選任した。

また、職務権限規程、業務分掌規程、経理規程及びコンプライアンス規程等、必要な規程・管理資料等の各種規定を全面的に刷新し、当期より運用を開始した。

さらに、経営トップ自らコンプライアンス遵守が経営の最重要課題であることを再度明確にし、コンプライアンス教育、継続したメッセージの発信等を行った。

### ② コンプライアンス

当社はコンプライアンスの徹底や意識向上を図るため、役員からのコンプライアンスに関する全社員向けスピーチ、全役職員を対象としたe-ラーニングによるコンプライアンス研修、コンプライアンス遵守状況の取締役会への報告を行いました。これらの取り組みは継続し、さらなるコンプライアンスの徹底や意識向上を図っている。

また、外部機関に内部通報窓口を設置するとともに、社内イントラネットへの掲示、社内会合での繰り返し周知等を行っている。

さらに、役職員に対して、組織エンゲージメント、ハラスメント実態、コンプライアンス違反実態等に関する定期的なアンケート調査を行い、組織内でコンプライアンス上の問題点の早期発見に努めている。

### ③ リスク管理体制

当社は、2022年10月13日にガバナンス強化委員会を設置している。当委員会では、公認会計士、弁護士等の財務・法務の専門家を委員とし、当社リスク・ガバナンス管理体制の改善・強化のため活発



な議論が行われている。

④ 内部監査体制

内部監査室の人員強化を行うとともに、内部監査室から監査等委員会に対して、月次で内部監査報告書を提出し内部監査の計画・手続・結果等の報告を行っている。監査等委員会は、必要に応じて内部監査室に指示を行い内部監査の実効性を確保している。また、四半期毎に監査等委員会、内部監査室、会計監査人の三者でコミュニケーションを行い連携をはかっている。

---

(注) 本事業報告中の記載金額・株式数は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

# 連 結 貸 借 対 照 表

(2022年12月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資 産 の 部)</b>		<b>(負 債 の 部)</b>	
<b>流 動 資 産</b>	<b>423,403</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>205,920</b>
現 金 及 び 預 金	349,948	買 掛 金	6,951
電 子 記 録 債 権	4,140	1年内返済予定の長期借入金	45,144
売 掛 金	39,415	未 払 金	122,659
前 払 費 用	7,462	未 払 法 人 税 等	9,071
そ の 他	22,469	未 払 費 用	7,520
貸 倒 引 当 金	△32	未 払 消 費 税	56
		前 受 金	11,141
		そ の 他	3,376
<b>固 定 資 産</b>	<b>13,642</b>	<b>固 定 負 債</b>	<b>158,088</b>
<b>投 資 そ の 他 の 資 産</b>	<b>13,642</b>	長 期 借 入 金	158,088
敷 金 及 び 保 証 金	13,632		
長 期 未 収 入 金	362,735	<b>負 債 合 計</b>	<b>364,008</b>
そ の 他	10	<b>(純 資 産 の 部)</b>	
貸 倒 引 当 金	△362,735	<b>株 主 資 本</b>	<b>55,180</b>
		資 本 金	532,007
		資 本 剰 余 金	860,801
		利 益 剰 余 金	△1,337,627
		そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計	64
		為 替 換 算 調 整 勘 定	64
		新 株 予 約 権	17,792
		<b>純 資 産 合 計</b>	<b>73,037</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>437,045</b>	<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>437,045</b>

# 連 結 損 益 計 算 書

(2022年1月1日から  
2022年12月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	447,185
売上原価	176,999
売上総利益	270,185
販売費及び一般管理費	493,220
営業損益	△223,035
営業外収益	
受取利息	6
保険解約返戻金	2,965
助成金の収入	3,724
その他	981
営業外費用	
支払利息	7,300
支払解約金	1,900
その他	80
経常損益	9,280
特別損益	△224,637
新株予約権戻入益	768
関係会社株式売却益	4,477
短期売買利益受贈益	23,469
受取損害賠償金	26,784
その他	767
特別損失	
減損損失	17,136
特別調査費用等	2,625
訂正関連損失引当金繰入額	17,723
投資有価証券評価損	21,264
その他	1,008
税金等調整前当期純損失	59,758
法人税、住民税及び事業税	△228,127
当期純損失	3,674
非支配株主に帰属する当期純損失	△231,801
親会社株主に帰属する当期純損失	—
	△231,801

## 連結株主資本等変動計算書

(2022年1月1日から  
2022年12月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	201,750	530,544	△1,105,826	△373,532
当期変動額				
新株の発行	330,257	330,257		660,514
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)			△231,801	△231,801
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)				
当期変動額合計	330,257	330,257	△231,801	428,712
当期末残高	532,007	860,801	△1,337,627	55,180

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△561	1,207	645	4,327	△368,559
当期変動額					
新株の発行					660,514
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)					△231,801
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	625	△1,207	△581	13,465	12,883
当期変動額合計	625	△1,207	△581	13,465	441,596
当期末残高	64	-	64	17,792	73,037

## 連結注記表

### 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、前連結会計年度まで継続して重要な営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、前連結会計年度末に、債務超過となりました。2022年12月29日付の「(開示事項の経過) 第10回新株予約権の一部行使及び債務超過の解消見込みに関するお知らせ」で開示しておりますように、当連結会計年度末において債務超過は解消されましたが、当連結会計年度も重要な営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、また、資金繰り懸念も生じております。これらにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる事象または状況が存在しております。

当社グループでは、当該事象または状況を解消するために、以下の施策を実施しております。

#### ①収益力の向上

##### ■幅広い企業への商品ラインナップ拡充・拡販

当社主力商品であるファン育成・活性化を支援する「アンバサダープログラム」は従来の大企業向け「エンタープライズプラン」に加え、中小企業向けに小規模の投資から導入が可能な「セレクトプラン」の拡販を推進しております。

アンバサダーマーケティングへの取り組みを検討中の企業向けに実施している自社セミナーの頻度を2倍に増やす等、新規顧客獲得やアンバサダープログラムに対する知名度向上に向けての活動は引き続き強化しております。また、「エンタープライズプラン」「セレクトプラン」の選択肢があることで、地方の食品メーカーや自治体、小売りなど、これまでの取引先にはなかったジャンルの顧客獲得という成果も出ております。

また、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）におけるクチコミ（個人の情報発信）が、生活者の購入・来店にどのように影響を与えているかの調査※を行い、購入検討時に最も影響を受けるのは「SNS検索」で見つけたクチコミであり、アンバサダーによるクチコミが購入意欲や購入動機に大きな影響を与えていることが明らかになりました。

当社は今後もアンバサダープログラムを通じたファンによるビジネス貢献を明らかにし、幅広い企業への導入を推進してまいります。

※[AMN調査リリース] SNSのクチコミが生活者の購入・来店に与える影響を調査（2022年9月26日）

<https://agilemedia.jp/pr/release220926.html>

##### ■当社システム機能追加による成果・満足度の向上

当社はアンバサダープログラムを運営・分析を支援する基幹ツール「アンバサダープラットフォーム」の機能開発への投資を継続的に行っております。また、3月にリリースした顧客からのリクエストが多いLINE

連携機能の拡販を進めております。現在は導入企業の顧客データとの関係や、企業担当者による運営負荷を軽減するオペレーションの自動化機能などの開発を進めており、アンバサダープログラムのさらなる価値向上に努めております。

#### ■パートナー企業との事業連携

「アンバサダープログラム」の拡販並びに運営負荷軽減の目的からパートナー企業との連携を推進しております。従来から共同で販売を推進している広告代理店、並びに地域企業への営業力を有するパートナーとの連携を強化しております。また、アンバサダープログラムと相性のよいSNS公式アカウント運用をメイン事業とするパートナー企業のリサーチ・関係構築の取り組みを開始し、数社とは共催でセミナーも実施いたしました。引き続き、クライアントの課題解決につながるパートナー企業・サービスの発見・連携に努め、当社が提供できる領域の拡大に努めてまいります。

#### ■コスト削減

2021年12月期から現在に至るまでコスト削減を進めてきた結果、2021年12月期と比較して売上原価で△51,486千円(△22.5%)、販売費及び一般管理費で△17,363千円(△3.4%)の削減をいたしました。なお、2020年12月期と比較して売上原価で△118,511千円(△40.1%)、販売費及び一般管理費で△51,315千円(△9.4%)の削減となっております。削減された主な内容といたしましては、人員削減に伴う人件費、オフィス縮小による地代家賃、外注費となっております。

#### ②資本政策による財務基盤の安定化

当社は、2022年12月29日付の「(開示事項の経過) 第10回新株予約権の一部行使及び債務超過の解消見込みに関するお知らせ」で開示しておりますように、第三者割当による新株式の発行、第三者割当による第10回新株予約権の発行及び本新株予約権のうち一部が行使されたことにより、計674百万円の払込がなされ、当連結会計年度末において債務超過は解消いたしました。しかし依然として資金繰り懸念が続いており、業容拡大のための投資や安定的な事業運営のための資金調達の実施が不可欠であると考えており、残りの新株予約権の行使による資金調達に加え、今後も更なる資金調達について検討を進めております。

しかしながら、その対応策は、今後の経済情勢等により収益が計画通り改善しない可能性があることや、資本政策はご支援いただく利害関係者の皆様のご意向に左右されるものであり、現時点においては継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められます。なお、連結計算書類は継続企業を前提として作成しており、継続企業的前提に関する重要な不確実性の影響を連結計算書類には反映しておりません。

## 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社の数

2社

主要な連結子会社の名称

株式会社popteam

愛加樂股份有限公司

当社の連結子会社であった株式会社クリエ・ジャパン及びHAIRSTUDY株式会社は、当連結会計年度に全株式を売却したことにより連結の範囲から除外しております。

#### (2) 主要な非連結子会社名

該当事項はありません。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法を適用した関連会社数

該当事項はありません。

#### (2) 持分法を適用しない関連会社のうち主要な会社等の名称

該当事項はありません。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な引当金の計上基準

##### ① 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 収益及び費用の計上基準

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日改正）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日改正）を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額

で収益を認識しております。

## 5. 会計方針の変更

### 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。収益認識会計基準等の適用による当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

### 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる影響はありません。

## 重要な会計上の見積もりに関する注記

該当事項はありません。

## 連結貸借対照表に関する注記

不正行為に関連して発生したものが、次のとおり含まれております。

	当連結会計年度 (2022年12月31日)
長期未収入金	362,735千円
貸倒引当金	△362,735千円

## 連結損益計算書に関する注記

①販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
役員報酬	48,331千円
給料手当	197,745千円
支払手数料	79,554千円



② 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

用途	場所	種類	減損損失 (千円)
その他	東京都港区	建物付属設備	14,919
事業用資産	東京都港区	ソフトウェア	2,216

③特別調査費用等

2021年6月21日付「第三者委員会の最終報告書公表及び役員報酬の減額に関するお知らせ」および2021年7月14日付「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度の決算短信等の訂正に関するお知らせ」において公表いたしました内容を踏まえ、第三者委員会による調査費用及び訂正報告書に係る監査費用等2,625千円を特別損失に計上しております。

**連結株主資本等変動計算書に関する注記**

1. 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,985,180	2,444,260	-	5,429,440

(変動事由の概要)

新株の発行

新株予約権の権利行使による増加 185,000株

第三者割当増資による増加 2,259,260株

2. 配当に関する事項

該当事項はありません。

3. 当連結会計年度末の新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く。）の目的となる株式の種類及び数

	第5回 新株予約権	第6回 新株予約権	第8回 新株予約権	第10回 新株予約権
目的となる株式の種類	普通株式	普通株式	普通株式	普通株式
目的となる株式の数	12,000株	33,900株	2,700株	4,666,800株

新株予約権の残高	200個	565個	9個	46,668個
----------	------	------	----	---------

## 金融商品に関する注記

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、必要な資金を投資家からのエクイティファイナンス及び銀行借入によって調達しております。また、デリバティブ取引は行っておりません。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。

敷金及び保証金は本社オフィス等の賃貸借契約に伴うものであり、差入先の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金はそのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。

借入金は、主に金利変動のリスクに晒されております。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ① 信用リスク（取引先の契約不履行等にかかるリスク）の管理

営業債権及び敷金及び保証金については、取引開始時に取引先の信用判定を行うと共に、取引相手ごとに期日及び残高を管理しております。また、契約更新時その他適宜取引先の信用状態の把握に努めております。

##### ② 市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

借入金の金利変動リスクについては、随時、市場金利の動向を監視する等により対応しております。

##### ③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

管理部が適時に資金繰表を作成・更新すると共に、適切な手許流動性を確保すること等により流動性リスクを管理しております。

#### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

### 2. 金融商品の時価等に関する事項

2022年12月31日（当連結会計年度の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 敷金及び保証金	13,632	12,741	△890
(2) 長期借入金 (1年内返済予定を含む)	203,232	201,926	△1,305

(注) 「現金及び預金」「受取手形及び売掛金」「電子記録債権」「買掛金」「未払法人税等」については、現金及び短期間で決済されるため時価が帳簿価格に近似するものであることから、記載を省略しております。

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

#### (1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

該当事項はありません。

#### (2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

区分	時価 (千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
敷金及び保証金	－	12,741	－	12,741
長期借入金	－	201,926	－	201,926

#### (注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

##### 敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価については、想定した貸貸契約期間に基づき、合理的に見積もった将来キャッシュ・フローを、決算日現在の国債利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

## 長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

## 収益認識に関する注記

### (1)顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

	売上高 (アンバサダー売上)
顧客との契約から生じる収益	447,185
その他	—
外部顧客への売上高	447,185

### (2)収益を理解するための基礎となる情報

「連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記 4. 会計方針に関する事項」の「(2) 収益及び費用の計上基準」に記載の通りであります。

### (3)当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

#### ①契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権 (期首残高)	92,968
顧客との契約から生じた債権 (期末残高)	43,555
契約負債 (期首残高)	12,086
契約負債 (期末残高)	11,141

当連結会計年度に認識された収益のうち、期首現在の契約負債の残高に含まれていた金額に重要性はあり

ません。なお、過去の期間に充足（又は部分的に充足）した履行義務から、当連結会計年度に認識した収益の額に重要性はありません。

## ②残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な取引はありません。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。なお、残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の便法を適用し、当初に予想される契約期間が1年以内の契約について注記の対象に含めておりません

## 1 株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	10円18銭
1株当たり当期純損失	△77円00銭

## 重要な後発事象に関する注記

### 1 株式会社コンフィの全株式取得による子会社化

当社は、2023年1月20日開催の取締役会において、株式会社コンフィの全株式を取得し、同社を子会社化することを決議いたしました。同日付で株式譲渡契約を締結し、同年1月23日付で株式の取得を完了しております。

#### (1)株式取得の目的

株式会社コンフィは、東京都港区に本社を置き、TikTokチャンネル運用事業を展開している企業であります。当社は、アンバサダーマーケティング事業を展開しており、同社を当社グループの一員とすることで、今後アンバサダーマーケティング事業とのシナジーの発揮や事業拡大が十分見込めることから株式を取得することといたしました。

#### (2)株式取得の相手方の名称

森田 学

#### (3) 買収する会社の名称、事業内容、規模

名称 株式会社コンフィ

事業内容 TikTokチャンネル運用事業

規模（2022年2月期）

資本金 1百万円

総資産 25百万円

純資産 △2百万円

(4)株式取得の時期

2023年1月23日

(5) 取得する株式の数、取得後の持分比率、取得価額

取得株式数 20株

取得後の持分比率 100%

取得価額 45百万円（アドバイザー費用等10百万円除く）

(6)支払資金の調達方法

自己資金

## 2 子会社株式の売却

当社は、2023年1月31日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社popteamの全株式を、プラスワンホールディングス株式会社に譲渡することを決議いたしました。同日付で株式譲渡契約を締結し、同年2月3日に譲渡が完了しました。

(1) 株式譲渡の理由

当社は赤字子会社の譲渡に取り組んでおり、同社の業績及びキャッシュ・フローは今後マイナスが見込まれておりました。経営資源の選択と集中を明確にすべく、当社グループの更なる発展を遂げていくためには、今回の株式譲渡が最善の手法・タイミングであると判断したものであります。

(2) 株式譲渡の相手先の名称

プラスワンホールディングス株式会社

(3) 株式譲渡の時期

2023年2月3日

(4) 異動する連結子会社等の概要

名称 株式会社popteam

事業内容 SNS アカウント運営の自動化及び分析ツールの提供

当社との関係 当社100%子会社

(5) 譲渡する株式の数、譲渡価額、譲渡損益及び譲渡後の持分比率

譲渡株式数 100株

譲渡価額 3,500,000円

譲渡損益 当社2022年12月期個別決算において、関係会社株式評価損として3百万円が計上されております。なお、この関係会社株式評価損は、連結決算において相殺消去されるため、2022年12月期における連結決算に与える影響はありません。

譲渡後の持分比率 0%

**企業結合に関する注記**

該当事項はありません。

# 貸借対照表

(2022年12月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>417,925</b>	<b>流動負債</b>	<b>205,367</b>
現金及び預金	344,061	買掛金	6,951
電子記録債権	4,140	1年内返済予定の長期借入金	45,144
売掛金	39,374	未払金	122,291
前払費用	7,455	未払法人税等	7,520
その他の	22,893	前受金	11,141
		預り金	3,316
<b>固定資産</b>	<b>17,110</b>	<b>固定負債</b>	<b>158,088</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>17,110</b>	長期借入金	158,088
関係会社株式	3,500		
敷金及び保証金	13,600	<b>負債合計</b>	<b>363,455</b>
長期未収入金	362,735	<b>(純資産の部)</b>	
その他の他金	10	<b>株主資本</b>	<b>53,788</b>
貸倒引当金	△362,735	資本	532,007
		資本剰余金	860,801
		資本準備金	433,987
		その他資本剰余金	426,813
		<b>利益剰余金</b>	<b>△1,339,019</b>
		その他利益剰余金	△1,339,019
		繰越利益剰余金	△1,339,019
		<b>新株予約権</b>	<b>17,792</b>
		<b>純資産合計</b>	<b>71,580</b>
<b>資産合計</b>	<b>435,036</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>435,036</b>



# 損益計算書

(2022年1月1日から  
2022年12月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	407,225
売上原価	166,502
売上総利益	240,723
販売費及び一般管理費	434,173
営業損失	△193,450
営業外収益	
受取利息	1
助成金収入	3,724
保険解約返戻金	2,965
その他	944
営業外費用	
支払利息	7,196
支払解決	1,900
その他	76
経常損失	9,172
特別利益	△194,986
新株予約権戻入益	768
短期売買利益受贈益	23,469
受取損害賠償金	26,784
その他	767
特別損失	
減損損失	17,136
特別調査費用	2,625
訂正関連損失引当金繰入額	17,723
投資有価証券評価損	21,264
関係会社株式売却損	22,021
関係会社株式評価損	5,041
その他	997
税引前当期純損失	86,809
法人税、住民税及び事業税	△230,006
当期純損失	3,499
	△233,505

## 株主資本等変動計算書

(2022年1月1日から  
2022年12月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本						株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰 余金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越 利益剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	201,750	103,730	426,813	530,544	△1,105,514	△1,105,514	△373,220
当期変動額							
新株の発行	330,257	330,257		330,257			660,514
当期純損失 (△)					△233,505	△233,505	△233,505
株主資本以外の項目 の当期変動額 (純額)							
当期変動額合計	330,257	330,257	－	330,257	△233,505	△233,505	427,009
当期末残高	532,007	433,987	426,813	860,801	△1,339,019	△1,339,019	53,788

	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	新株予約権	純資産 合計
当期首残高	1,207	1,207	4,327	△367,686
当期変動額				
新株の発行				660,514
当期純損失 (△)				△233,505
株主資本以外の項目 の当期変動額 (純額)	△1,207	△1,207	13,465	12,258
当期変動額合計	△1,207	△1,207	13,465	439,267
当期末残高	－	－	17,792	71,580

## 個別注記表

### 継続企業の前提に関する注記

当社は、前事業年度まで継続して重要な営業損失、経常損失、当期純損失を計上し、前事業年度末には、債務超過となりました。2022年12月29日付の「(開示事項の経過) 第10回新株予約権の一部行使及び債務超過の解消見込みに関するお知らせ」で開示しておりますように、当事業年度末において債務超過は解消されましたが、当事業年度も重要な営業損失、経常損失、当期純損失を計上し、また、資金繰り懸念も生じております。これらにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる事象または状況が存在しております。当社は、当該事象または状況を解消するために、①収益力の向上、②資本政策による財務基盤の安定化といった対応策に取り組んでおります。詳細は連結注記表における継続企業の前提に関する注記をご参照ください。

しかしながら、これらの対応策は、今後の経済情勢等により収益が計画通り改善しない可能性があることや、資本政策をご支援いただく利害関係者の皆様のご意向に左右されるものであり、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。なお、計算書類及びその附属明細書は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を計算書類及びその附属明細書には反映しておりません。

### 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準および評価方法

関係会社株式…………… 移動平均法による原価法

#### 2. 引当金の計上基準

貸倒引当金…………… 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### 3. 収益及び費用の計上基準

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日改正)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日改正)を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識しております。

#### 4. 会計方針の変更

##### 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。収益認識会計基準等の適用による当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

##### 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる影響はありません。

#### 重要な会計上の見積もりに関する注記

該当事項はありません。

#### 貸借対照表に関する注記

##### 1. 関係会社に対する金銭債権債務

未収入金 424千円

##### 2. 不正行為に関連して発生したものが、次のとおり含まれております。

	当事業年度 (2022年12月31日)
長期末収入金	362,735千円
貸倒引当金	△362,735千円

## 損益計算書に関する注記

### 1. 関係会社との取引高

営業取引による取引高	
仕入高	290千円
営業取引以外の取引高	38,222千円

### 2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	当事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	
役員報酬	41,731	千円
給料手当	166,579	//
法定福利費	33,706	//
おおよその割合		
販売費	21.7	%
一般管理費	78.3	//

## 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数  
該当事項はありません。

## 有価証券関係に関する注記

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2021年12月31日)	当事業年度 (2022年12月31日)
子会社株式	18,246	3,500
計	18,246	3,500

## 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の主な発生原因は、繰越欠損金、貸倒引当金、減価償却超過額、関係会社株式評価損等です。繰延税金資産に関しては回収が見込めないものとし、その全額に対して評価性引当額を計上しております。

## 関連当事者との取引に関する注記

### 1. 親会社及び法人主要株主等

(単位：千円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
主要株主	麻布台1号有限責任事業組合	被所有 直接 34.79%	第三者割当増資の引受 新株予約権の割当	第三者割当増資(注)1	510,000	資本金 資本準備金	255,000 255,000
				新株予約権の割当(注)2	5,760	新株予約権	5,760

(注)1. 普通株式の第三者割当による新株式の発行は、割当予定先との協議により2022年11月25日の株式会社東京証券取引所における当社の普通株式の終値である296円を参考とし、1株270円で行っております。

(注)2. 新株予約権の金額は、第三者算定機関であるトラスティーズ・アドバイザーズ株式会社の評価結果をもとに決定しております。

2. 役員及び個人主要株主等

(単位：千円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
主要株主(個人)及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社(当該会社の子会社を含む)	(株)古知	被所有 直接 3.40%	社債の引受	新株予約権の割当(注)1	7,907	資本金	25,257
				新株予約権の行使	564	資本剰余金	25,257
				社債の引受	291,500	新株予約権	7,343
				社債利息の支払(注)2	4,406	—	—
				社債の償還	291,500	—	—
主要株主(個人)及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社(当該会社の子会社を含む)	(株)玉光堂ホールディングス	—	不動産の転借り	敷金の差入れ	15,169	差入保証金	15,169
				立替金の支払い	10,970	—	—
				地代家賃	2,212	前払費用	1,499

(注)1. 新株予約権の金額は、第三者算定機関であるトラスティーズ・アドバイザーズ株式会社の評価結果をもとに決定しております。

(注)2. 社債利率は、当社の信用リスク及び市場金利等を総合的に勘案し決定しております。

### 3. 子会社及び関連会社等

(単位：千円)

種 類	会社等の名称	議決権等の 所有(被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	(株)クリエ・ジャ パン	所有 直接 100.0 %	資金援助 債務保証 役員の兼任	資金の貸付 (注) 1	30,000	—	—
				債権放棄 (注) 2	96,200	—	—
子会社	HAIRSTUDY(株)	所有 直接 100.0 %	資金援助 債務保証 役員の兼任	債権放棄 (注) 2	22,286	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 資金の貸付による利率については、市場金利を勘案し合理的に決定しております。

2. (株)クリエ・ジャパン及びHAIRSTUDY(株)の株式売却に伴い貸付金等の債権放棄をしております。  
なお、貸付金等には貸倒引当金及び投資損失引当金を合計で94,334千円計上しております。



#### 4. 役員および個人主要株主等

(単位：千円)

種類	会社等の名称 又は氏名	議決権等の 所有(被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
元役員	上田 怜史	(被所有) 直接 2.6%	債務被保証	銀行借入に対 する債務被保 証(注)	142,592	—	—

(注) 当社は金融機関からの借入について、上田怜史氏の債務保証を受けております。同氏は期中に役員を退任しておりますので、取引金額には退任した月の前月末残高を記載しております。

#### 収益認識に関する注記

顧客との契約から生じる収益を理解するための情報について、連結注記表「収益認識に関する注記」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

#### 1 株当たり情報に関する注記

1 株当たり純資産額	9円91銭
1 株当たり当期純損失	△77円57銭

#### 企業結合に関する注記

該当事項はありません。

#### 重要な後発事象に関する注記

連結注記表の記載と同一のため、連結注記表の記載をご参照ください。

## 独立監査人の監査報告書

2023年2月21日

アジャイルメディア・ネットワーク株式会社  
取締役会 御中

監査法人アリア

東京都港区

代表社員 公認会計士 茂木 秀俊  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 山中 康之  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、アジャイルメディア・ネットワーク株式会社の2022年1月1日から2022年12月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アジャイルメディア・ネットワーク株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 継続企業の前提に関する重要な不確実性

連結注記表の継続企業の前提に関する注記に記載のとおり、会社グループでは、継続して、重要な営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上しており、資金繰り懸念も生じている。これらのことから継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しており、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる。なお、当該状況に対する対応策及び重要な不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。連結計算書類は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は連結計算書類に反映されていない。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

### 強調事項

重要な後発事象の注記に記載のとおり、会社は、株式会社コンフィの全株式を取得し子会社化した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- ・経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

- ・連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

2023年2月21日

アジャイルメディア・ネットワーク株式会社  
取締役会 御中

監査法人アリア

東京都港区

代表社員 公認会計士 茂木 秀俊  
業務執行社員代表社員 公認会計士 山中 康之  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、アジャイルメディア・ネットワーク株式会社の2022年1月1日から2022年12月31日までの第16期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 継続企業の前提に関する重要な不確実性

個別注記表の継続企業の前提に関する注記に記載のとおり、会社では、継続して、重要な営業損失、経常損失及び当期純損失を計上し、当事業年度末において、債務超過となっている。また、資金繰り懸念も生じている。これらのことから継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しており、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる。なお、当該状況に対する対応策及び重要な不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。計算書類等は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は計算書類等に反映されていない。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

## 強調事項

重要な後発事象の注記に記載のとおり、会社は、株式会社コンフィの全株式を取得し子会社化した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうかを注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

・計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

・経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2022年1月1日から2022年12月31日までの第16期事業年度の取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。なお、2022年8月9日に開催された臨時株主総会において、当社は監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移りましたが、2022年1月1日から2022年8月9日に開催された同株主総会までの間の監査役会による監査の方法及び結果につきましても、以下の報告と同様であることを付記いたします。

### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ① 監査等委員会が定めた監査等委員会監査等基準に準拠した監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部監査部門その他内部統制所管部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。



## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 当社ならびに当社台湾子会社において元取締役による資金流用ならびに不適切な会計処理が判明し、2021年と2022年の二度にわたって第三者委員会による調査が行われた結果、内部管理体制等に改善の必要性が高いと認められ、当社株式は、2022年6月15日付けで、株式会社東京証券取引所より特設注意市場銘柄の指定を受けることとなりました。これらの事実を厳粛に受け止め、コーポレートガバナンス体制を強化することを目的に、2022年8月9日に監査等委員会設置会社に移行いたしました。監査等委員会は再発防止に向けた対応状況について監視及び検証をしております。なお、本事業年度における取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。なお、内部統制について開示すべき重要な不備はありますが、信頼回復に努めるべく再発防止策に取り組んでおり、また、当期の計算書類及びその附属明細書並びに連結計算書類の適正性に影響が生じておりません。
- ④ 事業報告に記載されている親会社等との取引について、当該取引をするに当たり当社の利益を害さないように留意した事項及び当該取引が当社の利益を害さないかどうかについての取締役会の判断及びその理由について、指摘すべき事項は認められません。
- ⑤ 当社グループは、2022年12月の増資により債務超過の状態が解消されたものの、当連結会計年度まで継続して重要な営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、また資金繰り懸念も生じております。これらにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる事象または状況が存在しており、その解消が喫緊の課題であります。当社は、その課題解消に向け、各施策を通じて業績の回復を図ろうとしており、今後の監査におきましては、引き続き会社によるこれらの取り組みについて監視を行ってまいります。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人監査法人アリアの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人監査法人アリアの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2023年2月22日

アジャイルメディア・ネットワーク株式会社

監査等委員会

監査等委員 野 口 敦 司 ㊟

監査等委員 豊 嶋 秀 直 ㊟

監査等委員 水 野 靖 彦 ㊟

以 上

## 株主総会参考書類

### 議案及び参考事項

#### 第1号議案 定款一部変更の件

##### (1) 提案の理由

将来の事業展開に備えた機動的かつ柔軟な資本政策の実行を可能にするのため、会社法第113条第3項に基づき、現行定款第6条（発行可能株式総数）に定める当社の発行可能株式総数を1千194万720株から2千171万7760株に増加させるものであります。

##### (2) 変更の内容

(下線部は変更部分)

現行定款	変更案
第1条～第5条（条文省略）	第1条～第5条（現行通り）
第6条（発行可能株式総数） 当社の発行可能株式総数は、 <u>1千194万720株</u> とする。	第6条（発行可能株式総数） 当社の発行可能株式総数は、 <u>2千171万7760株</u> とする。
第7条～第40条（条文省略）	第7条～第40条（現行通り）



## 第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）4名選任の件

本総会終結の時をもって取締役（監査等委員である取締役を除く。）3名全員の任期が満了となりますので、経営体制の強化を図るため新たに社内取締役を1名増員し、取締役（監査等委員である取締役を除く。）4名の選任をお願いするものであります。

取締役（監査等委員である取締役を除く。）候補者の氏名、略歴等は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	
1	みやじ ひろし 宮地 広志 (1983年4月2日)  所有する当社の株式の数 18,519株	2007年4月	株式会社三井住友銀行 入社
		2017年1月	株式会社日本M&Aセンター 入社
		2019年1月	株式会社fundbook 入社
		2022年4月	Orb Partners株式会社 代表取締役社長（現任）
		2022年12月	当社取締役就任
		2023年1月	当社代表取締役社長就任（現任）
	<p>■取締役候補者とした理由</p> <p>宮地広志氏は、社長就任以来強いリーダーシップを発揮し、経営の指揮を執り続けております。金融機関やコンサルタント会社での経験を通じて得たM&amp;A・事業再編、企業経営に関する幅広い知見と強いリーダーシップは、当社の持続的な発展・企業価値向上を目指す上で欠くことのできないものであるため、引き続き取締役候補者としたしました。</p>		
2	かわかみ げんき 川上 元樹 (1984年2月5日)  所有する当社の株式の数 一株	2007年12月	監査法人トーマツ（現 有限責任監査法人トーマツ）入社
		2018年1月	川上元樹公認会計士事務所 所長（現任）
		2022年12月	当社取締役CFO就任（現任）
	<p>■取締役候補者とした理由</p> <p>公認会計士資格を有し、また監査法人での豊富な経験から、財務・会計・内部統制に精通しており、取締役就任以来、CFOとして内部管理体制や取締役会の監督機能の強化に尽力しております。これらの実績を踏まえ、今後もかかる経験・見識を当社の経営、管理部門の強化に活かしていただくため、引き続き取締役候補者としたしました。</p>		

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	
3	まつみや ゆきこ 松宮 優紀子 (1979年12月17日)  所有する当社の株式の数 一株	2002年4月 2003年9月 2005年10月 2019年1月 2020年3月 2022年8月	株式会社ズームエンタープライズ 入社 株式会社エレファントコミュニケーションズ 入社 株式会社サイバーエージェント 入社 当社入社 当社アンバサダーマーケティング部長 当社取締役就任 (現任)
	<p>■取締役候補者とした理由</p> <p>当社入社以降、主力事業であるアンバサダープログラムの企画・提案を行う営業部にて部長職を務める等、当社の事業推進への豊富な経験と実績を有し、昨年の取締役就任以降、営業部門の指揮、取引先との関係強化に尽力しております。これらの実績を踏まえ、当社の持続的な発展、企業価値向上に資する適切な人材であると判断し、引き続き取締役候補者いたしました。</p>		
4	もりた まなぶ 森田 学 (1997年5月16日)  所有する当社の株式の数 一株	2018年4月 2022年5月 2022年5月	株式会社コンフィ 代表取締役社長 株式会社TKK Inventors 代表取締役社長 株式会社コンフィ取締役就任 (現任)
	<p>■取締役候補者とした理由</p> <p>森田氏は東京大学医学部在学中に株式会社コンフィを設立し、アプリケーション開発事業、動画制作事業、企業向けのTikTokアカウント運営事業などを行い、特にSNS分野における幅広い見識と先見性を有しております。同氏のこれまでの経験は当社の事業拡大、企業価値向上に大きく寄与するものであり、今後の当社の発展に資する人材であると判断したことから、取締役候補者いたしました。</p>		

- (注) 1. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 当社は、取締役宮地広志氏、川上元樹氏及び松宮優紀子氏との間で会社法第430条の2第1項に規定する補償契約を締結しており、同項第1号の費用及び同項第2号の損失を法令の定める範囲内において当社が補償することとしております。(ただし、法令違反の行為であることを認識して行った行為に起因して生じた損害は補償されないなど、一定の免責事由があります。)宮地広志氏、川上元樹氏、松宮優紀子氏及び森田学氏が選任された場合には同様の補償契約を継続する予定であります。
3. 現在当社は、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、各候補者が選任された場合は、当該保険契約の被保険者となります。なお、保険契約の内容については以下のとおりです。

**【役員等賠償責任保険契約の内容の概要】**

当社は、保険会社との間で会社法第430条の3第1項の役員等賠償責任保険契約を締結しており、同保険の被保険者の範囲は、当社及びその子会社の取締役(監査等委員である取締役を含む)になります。保険料は全額当社が負担しており、被保険者の職務の執行に起因して提訴された株主代表訴訟、第三者訴訟などにより請求された損害賠償金及び訴訟費用等が、同保険により補償されます。ただし、当該保険契約によって被保険者である役員等の職務の執行の適正性が損なわれないようにするための措置として、被保険者が違法に利益又は便宜を得たこと、犯罪行為、不正行為、詐欺行為又は法令、規則又は取締役法規に違反することを認識しながら行った行為に起因する損害賠償は、上記保険契約の補償対象外となっております。

以上

## 株主総会会場のご案内

**会場** TKP新橋カンファレンスセンター  
ホール14A

**住所** 東京都千代田区内幸町1丁目3-1  
幸ビルディング

### <ご案内図>



### <アクセス>

都営三田線内幸町駅A5出口 徒歩1分  
JR山手線/京浜東北線/東海道本線/横須賀線新橋駅日比谷口 徒歩7分  
東京メトロ銀座線/都営浅草線新橋駅8番出口 徒歩7分  
東京メトロ日比谷線/丸ノ内線/千代田線霞ヶ関駅C4出口 徒歩8分

UD  
FONT

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。